

令和6年度学校事故等有識者会議資料

【議題2】

学校安全に関わる 次年度の取組

「不審者等侵入対応訓練」

(皿倉小学校の実践を踏まえて)

「次年度に向けた構想」の概要

○ 学校に取り組んでもらう内容

1. 安全な環境整備と児童への安全指導・教育の推進
2. 事故や事件を未然に防ぐための**職員研修**
3. 事故や事件を想定した「**実地訓練**」の実施
 - ① 緊急時対応訓練、② **不審者侵入時対応訓練**
4. 研修や実地訓練を通した、学校危機管理マニュアルの見直し

危機管理・緊急時における職員の対応力向上を目指す



福岡県学校保健会委嘱「皿倉小学校による実践」を全校に紹介

⇒資料10

事故や事件を想定した「実地訓練」

緊急時対応訓練



児童が意識不明の状態に陥った状況を想定した職員の対応訓練

不審者侵入時対応訓練



校内に不審者が侵入した状況を想定した職員の対応訓練

緊急時の対応にあたる職員の役割を明確にする、京都市の「HANAモデル」を導入した実践。



不審者等が侵入した状況において、児童生徒の安全確保のために必要な職員の動き、児童生徒の行動等を、訓練を通して見直しを図っていく。



実地訓練後に、職員による振り返りを通して、緊急時に適切な対応をとるためには、日頃の訓練と事前の準備が重要であることを全職員で共有する。



研修を通して見つかった改善点を踏まえ、学校危機管理マニュアルを見直し、緊急時の対応に必要な日頃からの取組を推進する。

「学校の安全管理意識」を高める 学校安全教育の推進 ～緊急事態に備えた実地訓練と未然防止のための安全指導～

北九州市立皿倉小学校

1 学校の概要

北九州市八幡東区に位置する本校は、約30年前に3つの小学校が1つに統合された学校として、多くの地域の方々に見守られながら生活している。皿倉山の麓にある学校であり、自然豊かな環境に囲まれながら、子どもたちは学習をしている。さらに、校区内及び近隣には、警察署や消防署、大学や博物館などの教育機関や施設があることから、地域資源を活用した効果的な学習を進めている。

現在、北九州市教育委員会より小中一貫教育のリーディング校、ICT活用のリーディング校として、取組を進めている。中学校区における小中一貫教育目標「確かな学力と豊かな心で、たくましく生きる児童生徒を育む学校」の実現に向けて「9年間を見通した教育活動の実践」「個別最適な学び」「協働的な学び」を進めている。

2 主題設定の理由

昨今、大雨や地震、熱中症等の自然現象、登下校中の事故や不審者等、学校安全を脅かす事態が全国各地で発生している。「学校は安全・安心な場所でなければいけない」という大前提を踏まえ、これまで、そのような事態に対応するために、子どもたちに対する避難訓練や防犯訓練等の安全教育を行ってきた。教職員に対しては、学校危機管理マニュアルや講話等の研修の実施をしてきた。

一方で、いつ起こるか分からない緊急事態について、児童の命を守るために日頃からの体制づくりや、適切且つ素早く対応できる実践力の育成も同時に必要であると考えた。

以上の理由で、『学校の安全管理意識』を高める学校安全教育の推進～緊急事態に備えた実地訓練と未然防止のための安全指導～を主題とし、緊急事態に備えた実地訓練を通して、学校事故や不審者に対する教職員の対応力の向上に取り組んだ。

3 研究の実際

(1) 給食時における事故対応訓練及び研修

①エピペン研修

食物アレルギーの児童がアナフィラキシーショックを発症させた際の対応について、養護教諭による研修及びダミーのエピペンを使用した実践的な訓練を行った。【写真1】



【写真1 エピペン研修】

②心肺蘇生、誤嚥対応訓練

八幡東消防署による、心肺蘇生法及び給食時における誤嚥対応訓練を実施した。【写真2】



【写真2 訓練の様子】

(2) プール学習時における事故対応訓練及び研修

①京都市教育委員会による学校安全体制構築に関する講話
京都市教育委員会と連携し、担当指導主事による「かけがえない子どもの命を守りきる～「HANAモデル」を取り入れた学校安全体制の構築～」というテーマで小中合同研修を実施した。京都市で実際に起こった、プール事故の概要やその対策として作成した「HANAモデル」を活用した職員研修の実際についての講話や小中学校の教員による意見交換を行った。【写真3】

②八幡東消防署監修のプール事故を想定した救助訓練

プールで児童が溺れた際の救助方法（引き揚げ、回復体位、心肺蘇生の方法）について職員が実際にプールに入っ

③プール事故を想定した緊急対応総合訓練

京都市教育委員会が作成した「HANAモデル」を参考に、水難事故を想定した総合訓練を行った。「本部」「現場対応」「救急車対応」「保護者対応」「児童対応」の各場面に分かれ、各担当が連携しながら組織的に対応する訓練を実施した。【写真5】



【写真3 意見交換の様子】



【写真4 救助訓練の様子】



【写真5 救助訓練の様子】

(3) 学校への不審者侵入を想定した対応訓練及び研修

①八幡東警察署による不審者対応訓練

八幡東警察署員が不審者に扮して学校に侵入し職員が対応する訓練を、より実践に近づけるために職員には「予告なし」で実施した。【写真6】

その後、八幡東警察署の方から、実際に不審者と対峙した際の対応に関する留意事項や110番通報の方法の説明を聞き、その後、さすまた等を活用した不審者対応訓練を実施した。【写真7】

②不審者対応と児童の避難を連動させた訓練

警察署による不審者対応訓練で学んだことを反映させ、職員による不審者対応訓練【写真8】と児童の避難【写真9】を連動させて訓練を実施した。



【写真6 予告なし訓練の様子】



【写真7 対応訓練の様子】

不審者対応×児童の避難 ①職員による不審者対応



【写真8 救助訓練の様子】

不審者対応×児童の避難 ②児童の避難訓練



【写真9 避難訓練の様子】

(4) 動画を活用したフィードバック

①研修後の協議・振り返りにおける活用

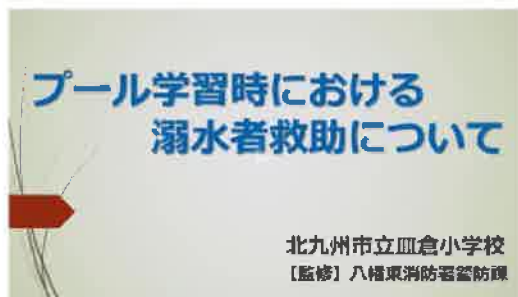
研修後に、各担当で、撮影した動画を活用しながら振り返りや協議を行い、成果と課題を明確にし、内容を深めた。【写真10】



【写真10 動画を活用した振り返り】

②研修のまとめ動画

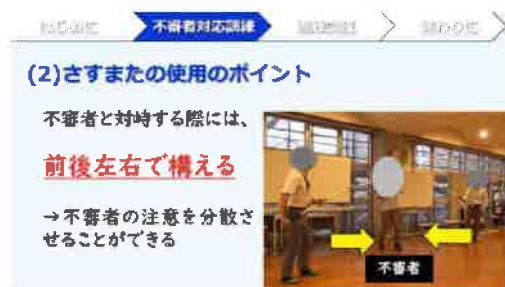
これまで行ってきた研修（プールからの引き揚げ訓練、緊急対応総合訓練、不審者対応訓練）のまとめ動画【写真11～14】を作成し、学び直すとともに、自分の担当以外の動きを把握したり、次年度の訓練の事前に活用したりすることで、訓練の効果を高めるようにした。



【写真11 溺水者救助方法の動画】



【写真12 緊急対応総合訓練の動画】



【写真13 不審者対応の動画】



【写真14 不審者対応×避難訓練の動画】

(5) 安全を確保するための環境整備

①不審者対応に向けた環境の整備

正門や児童の集中下足入口の施錠、来校者に対する入校証や来校者名簿の設置を行い来校者の状況を把握するとともに、「不審者を学校に侵入させない」という意思表示を行った。加えて、学校側の主張を成立させるために、校内における写真・動画の撮影許可、来校者名簿の記入、入校証の携帯などのお願いを掲示している。【写真15】



【写真15 来校者名簿と入校証】

また、全職員に笛を配布し、学校行事や授業で使用するだけでなく、不審者侵入といった危険の周知を行うようにした。常に対応することができるよう、名札に笛を付けて準備している。【写真16】



【写真16 名札につけた笛】

②プール事故に対応する環境整備

プール学習時に搬送が必要な場合に備え、レスキューベンチを設置した。【写真17】

普段はベンチとして使用するが、座面部分を取り外し可能で、両端から握ることができる設計となっているため、搬送が必要な場合は担架代わりに使用するようにした。



【写真17 レスキューベンチ】

緊急対応時に、職員が組織的に対応することができるように、「HANAモデル」を参考にし、本校の実態に修正したものになるように整理した。対応を担当と時系列の軸で整理した「対応時のフローチャート」をプールと職員室に掲示した。【写真18】

各担当がどのように対応すればよいのか明確にした「対応指示カード」を作成し、カードを職員に渡すことで対応する内容の重なりや対応不足の防止するようにした。【写真19】

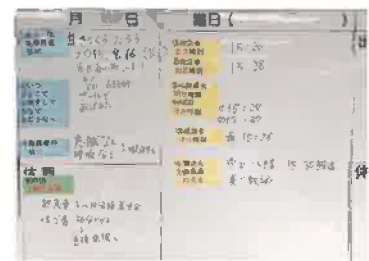
対応の記録を整理する「記録用ボード」を作成し本部のホワイトボードに張り付け、情報の整理や聞き取り忘れを防ぐとともに、保護者連絡の際に活用できるようにした。【写真20】



【写真18 フローチャート】



【写真19 対応指示カード】



【写真20 対応記録(ホワイトボード)】

4 成果と課題

(1) 成果

- ① 実地訓練をすることで、座学だけでは分からない対応の難しさを体感することができた。特に、溺水者の発見は監視者でも発見が難しいことが分かった。不審者対応もどのように対応するのかあらかじめ決めていても、実際に対応するとうまくいかないことを実感した。
- ② 紙面では気づかない課題（職員間連携、避難場所の決定、児童のケア等）が明確になった。
- ③ 撮影動画を見ながら振り返りや確認をしたので、イメージしやすく課題が明確になった。
- ④ 警察署や消防署などの専門の機関との連携により、具体的な対応を学ぶことができた。
- ⑤ 他都市の実際の声を聴くことで、自分事として捉えることができるようになった。
- ⑥ 繰り返して訓練することでスキルアップすることができた
- ⑦ 管理職や特定の職員だけではなく、全職員で対応するという意識が高まった。
- ⑧ マニュアル通りにいかない点を把握することができ、修正することができた。

(2) 課題

- ① 誰がどの担当になっても対応できるようになるまでには、かなりの時間を要する。
- ② 管理職や中心となる職員が不在の際にも、対応できるようにしておかなければならない。
- ③ 訓練導入初期は、全てシナリオを作成しないと難しい。シナリオ通りにやってもうまくいかないことがある。その状況でも事案は突然発生するため、日頃からの訓練が必要である。
- ④ 職員が手薄であったり、加害者や被害者が複数人発生したりするようなケースでは対応が難しくなる。
- ⑤ 緊急対応で携帯電話を所持していない職員はどう対応するか考えなければならない。
- ⑥ 訓練のように万全の状態が職員が対応できる状況は少なく、授業中など、職員が不足する傾向の時は、対応が難しくなる。
- ⑦ 予告なし不審者対応は、職員にかかる負担が大きいため、配慮が必要である。
- ⑧ ハード面のさらなる強化（防犯グッズ、公用携帯、見守りカメラなど）が必要である。